

令和 5(2023)年 4 月 1 日

令和 5 (2023) 年度入学式

理事長祝辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

また今まで皆さんを励まし、支えてこられた保護者の皆さまにも、心よりお祝い申し上げます。

今日一日はあこがれるのはやめましょう。ワールドベースボールクラシック決勝戦、直前に大谷翔平選手がチームメンバーに対して言った言葉です。憧れによって自ら壁を作り、縛られていた選手たちの心は解き放たれ、若い選手も大活躍しました。

これは正に、新しい学びの環境に飛びこもうとする皆さんにも、当てはまる言葉です。自分には届かないとあきらめてしまうのではなく、自分の可能性を信じて挑戦していく。考え方を変えていくだけで、これからの大学生活の成果も変わります。

この春の良き日に、みなさんは大学生活をスタートします。これからはじまる大学での学びや、友人・先生との時間、サークルや課外活動など、期待に胸を膨らませていることでしょう。

神田外語大学の理念「言葉は世界を繋ぐ平和の礎」は、創設者の「二度と戦争を起こさないためには、海外の人たちと心を通わせられる若者を育てなければならない。そうだ、海外の言葉や文化が学べる学校を作ろう」という決意から始まりました。

今、世界には、戦争など、自分の意志ではどうにもならない要因で、苦しい生活を強いられ、学びの機会を奪われている同じ世代の若者たちが数多くいます。

「それまで戦争は、どこか遠くの出来事でした。突然それが恐怖と絶望の壁となって立ちふさがり、迷子になってしまったように感じました。」ウクライナ出身の13歳イエバ・スカリエツカさんは、自らの日記を綴った著書「あなたは戦争が何かを知らない」で語ります。

未だかつてない不安定な世界情勢ですが、人間の起こした問題は人間が解決できます。人間は言葉を持ち、話し合い、助け合い、考えることで、文明を発展させてきたのです。そして今こそ、我々の理念を体現する若者が必要とされています。

言葉を学び、それを活かすとは何でしょう。言葉を学ぶということは、自分と違った世界を知ることです。なぜ、その人はそう考えたのか。そこにどんな背景や価値観を持っているのかを理解することで、相手に寄り添うことができます。そして問題を解決する策が生まれてきます。

言葉を学ぶことを入り口として、世界の課題について興味を持ち、自分なりの問題解決方法を考えてください。学び続け、考え続けることが大切です。皆さんには、課題に対し、学び、考え続けるライフロングラーナー（生涯学習者）を目指してもらいたい。自らの壁を打ち破り、様々な新しいことに触れ、面白いと興味を持ち、学べるかどうか、成長への分かれ道です。

神田外語大学には、日本のみならず世界各地から招聘した素晴らしい先生方やスタッフがそろい、みなさんを全力でサポートする体制を整えています。更に授業外でも、楽しく学び続けられる SALC や MULC、図書館など充実した教育環境があります。積極的にこれらの施設を利用してください。

最後に、今日ここに入学したみなさんには自由があります。思い通りになる時間があります。安心して学べる環境があります。平和に恵まれた環境にいる私たちだからこそ、平和の実現のためにできることを考えてみましょう。

先ほどのイエバさんは、今イギリスに亡命し、ようやく学校に通えるようになったそうです。そして将来は、たくさん勉強して「どうしたら戦争を止められるのかを考えたい」と新しい夢に向かっていているそうです。

皆さんが充実した素晴らしい大学生活を送られることに大いに期待し、私からの祝辞とさせていただきます。本日は、ご入学おめでとうございます。

学校法人佐野学園 神田外語大学
理事長 佐野元泰